



南舞岡小だより

学校教育目標「学ぼう つながろう 切り拓こう」

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (Tel823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>



不易流行

副校長 佐藤 朋実

二十四節気は、旧暦が使われていた時代から季節を表すために使われ、農作業などで季節の移り変わりをとらえるうえで役立ってきました。例えば暑い盛りの8月上旬の「立秋」など気候と合わないような印象のものもありますが、ちょうど今、9月23日頃の「秋分」から10月の「寒露」「霜降」を経て11月初旬の「立冬」に向かうこの時期は、実際に朝夕の冷え込みを感じ始めるころと重なり、ぴったりのような気がします。

9月に5年生が外部講師による「キャリア教育」の授業を行いました。その中で「10年後の携帯電話」を考え、そこから将来の仕事について考えていく内容がありました。ふと、自分が就職したころを思い出すと、電話といえば固定電話のこと、一人ひとりが電話を持ち歩くことが当たり前の世の中がすぐにもやってくるなど思ってもいませんでした。特にスマートフォンが普及し始めてから、社会のデジタル化が加速しているように感じられます。学校でもほんの数年前まで、授業でパソコンを使うときにはPC教室に行っていました。GIGAスクール構想が進展し、一気に「一人一台端末」が行き渡りました。今はどの学年の教室でも授業中にノートや筆箱と一緒にタブレット端末が机に置かれ、必要に応じて使うことが当たり前になってきました。だからと言って、紙の教科書や本、ノート、鉛筆などをもう使わなくなるわけではありません。例えば、昆虫の観察カードを作成するときに、写真を使うこともあります。今回は、昆虫の体の特徴をとらえて理解するために、よく観察して図を描きましょう」という学習活動を行うこともあると思います。そして以前であれば、調べたい昆虫が動いたり、飛んで行ってしまったりして「よく観察する」ことが難しい場合でも、タブレット端末で写真を撮って、それを見て、細かいところまで観察して描く、ということがすぐにできるようになりました。学習でいえば身に付けたい力やねらい等に応じて使い分け、上手に使いこなすことができればよいのだと考えています。

先月の学校だよりでご紹介した本校第四代校長の大竹繁男先生から直接お話を伺う機会がありました。本校にご在職中、まだ「総合的な学習の時間」は始まっていませんでしたが、そこに通じるような教育活動に取り組まれ、ちょうど舞岡公園開設の時期とも重なり、今も続く「田んぼ活動」など舞岡公園を生かした実践の端緒を開かれた方ということが分かり、感慨深くお聞きしました。その「田んぼ活動」も始まったころと今と、子どもたちが同じような課題をもって取り組んでいるとは限りません。公園を取り巻く環境や関わってくださる方々、農業や稲作あるいは環境問題等についての考え方などの変化の影響を受けたり、今日的な課題でいえばSDGsの視点を取り入れたり、「舞岡公園の米作り」は連綿と続く活動であっても、時代に応じた取組とともに続けられてきたのだと思います。

変化が速く、大きい時代だからこそ思い浮かべる「不易流行」の言葉。コロナ禍という変化を促す事象を経て、その意味することとその大切さを目の当たりにし、改めて考えさせられる昨今です。